



ひんやりと、  
朝もやが渡る。  
森の都が目を覚めます。

(本妙寺山頂より)

熊本市の夜明け

(本妙寺山頂より)

加藤清正の廟所として、また、春は桜の名所としても知られる熊本市の本妙寺。十二か寺の塔頭が立ち並ぶ参道をぬけ、三百段の石段を登り詰めた山頂には、清正の銅像があり、眼下には、熊本城がそびえている。

早朝、東の空が白み始めるころ、山脈をふちどる薄むらさきの光をバックに、ゆっくりと姿を現わす、勇壮な天守閣。白くたなびく朝もやの中には、お城を囲む楠の木立ちが広がる。  
ひんやりとした冷気の中で、新しい一日の営みの音が少しずつ響き出すところ。かつて漱石が「森の都」と呼んだ熊本の街に、目覚めの時が訪れる。

